

消

こんにちは！
費生活相談室です 94

消費生活相談室 (☎47-1106 FAX44-7957)

◆事例
自宅に訪ねてきた販売員に「無料でいいものをあげるから集まってくれ」と会場(近くの家のガレージ)に誘われた。そこにはすでに近所の人が集まっており、販売員が「近くスーパーを開店する予定で、その宣伝に来た」と日用品を無料で配りだし興奮状態になった。

SF商法(催眠商法)にご注意ください

◆SF商法(催眠商法)とは
販売員が自宅を訪問するなどして、主婦や高齢者を会場に集め、無料で日用品などを配り気分を高揚させ、冷静な判断ができない状態で最終的には高額な商品を買っていった手口の商法です。

例年、春頃から多発する傾向にあるのでご注意ください。

◆SF商法(催眠商法)とは
「無料の粗品」「特別価格」などの言葉につられて会場に行くと、契約するまで帰してもらえなくなる可能性がります。安易に会場に行かないこと。また、しつこく誘われても、はっきりと断ることが大切です。

もし契約をしても、契約書面が交付されてから8日以内ならクーリング・オフができます。たとえ8日が経過していても、不当な勧誘方法があった場合は取消しができる場合がありますので、できるだけ早くご相談ください。

◆相談受付時間
毎週月～金曜日
午前9時～正午・午後1時～4時

み

みんなで拓く人権文化 80

地域振興課人権政策室 (☎47-1102)

子育てに夢とロマンを

去る1月下旬「みんなで差別をなくし幸せな社会を実現しよう」という主題のもと『第35回米子市人権・同和教育研究会』が開催されました。記念講演では福岡市在住の元小学校教師福永宅司さんの「人権教育に夢とロマンを」とトークと一人芝居「君をいじめから守る」を聞きました。上演された「一人芝居」については地元マスコミも何回か報道しましたので、トークと著書より要旨を紹介します。

う。親から子への最高の贈り物とは？それは、子どもを讀書好きにしてあげること。
そして、「なんで勉強しないといけないの？」この問いに対する答えを用意しよう。学ぶことは世界を広く、学ぶことは世界を面白くし、学ばなければ差別に加担していく。「生きる」ことの大切さを教えたいならば、「死」について子どもと考えるべき。
参加者の問題意識の確にわかりやすく話され、さすが教職経験20余年、創造的実践を重ね年間200回を越す講演活動されている方と、感心しました。
長引く不況。大人たちの不安は子どもへも影響します。人々のいらだちは弱いものへと発散されます。子どももその弱者の一人です。さまざまな問題を抱えて子どもたちは今の時代を生きています。「生まれてきてくれてありがとう」これが子育ての原点です。と。
(人権教育推進員 藤原順宣)

今月のサロンコンサート

「まつもと・わーるど」
2回目の出演だよ！SP

月とき・ところ 3月19日(金)午後7時30分～8時40分

文化ホール(入場無料)

月出演 ギター弾き語り まつもと・わーるど

不思議に思った出来事、伝えたいことをオリジナル曲にして、アコースティックギターの弾き語りて伝える「まつもと・わーるど」さん。思わず笑ってしまう歌詞、気が付くと口ずさんでいるメロディ、不思議な世界を楽しんでください。

(問合せ先 生涯学習課文化体育係 ☎47-1093)



図書館に行こう！

(市民図書館 ☎47-1099)



『みみかきめいじん』
かがくいひろし



『おにの子ムウ』
鈴木ゆき江:作
若林真実子:絵

ちいさなきいろいクレヨンが、おにの子と人間の女の子の心を一つに結びつける。【小学校・高学年まで】



『壬申の乱を読み解く』
早川万年

7世紀末の11ヶ月で決着のついた壬申の乱は後の「国家」の姿を決める直接の機縁となったという。



『欧州迷走』
白井さゆり

世界的不況の中、EU経済もまた揺れ動いている。その揺れは日本やアジアへどんな影響を及ぼしているか。



『月華の銀橋』
高任和夫

新井白石が激しく嫉妬したと言われる天才経済官僚の勘定奉行萩原重秀と白石のひそやかな心理戦。

今月の新規・寄贈図書

◇セーヌの川辺(池澤夏樹) ◇親鸞(上・下)(五木寛之) ◇リフ・オームの教科書(中野博) ◇シャボン玉同盟(梨屋アリ) ◇女性同士の争いはなぜ起こるか(妙木忍) ◇白いひつじ(長野まゆみ) ◇あなたならどうしますか？(竹中教子) ◇子どもの貧困白書(子どもの貧困白書編集委員会) ◇18歳からの人生デザイン(國分康孝) ほか計379冊

さいみなど文化財巡り

農民活動家・松本積善

老農として篤い信頼を受けた先人と同じように、青年期は精農家と賞賛され、その後農民運動家として奔走した人、その人が松本積善です。

明治二十一年(一八八八)彼は現在の三軒屋町の小作農の家に生まれましたが、小作農の宿命であるように、貧困と背中央合

十五歳にして松本家を背負っていく事になります。農業への情熱は強く、各種の講習から技術改良に励み、新しい農業経営を行い、収穫量を上げる姿は農業従事者の模範といわれました。

大正五、八年頃、弓浜半島の綿作は安い外国産綿におかれ衰退し、代わって養蚕が発展して弓浜部の畑の約八十%が桑畑になりました。

積善もそのころは一町二反歩を耕作し桑の栽培もしていましたが、実際の自作地は二反歩でしたから小作料は相当の負担でした。

大正九年、第一次世界大戦後の反動で世界恐慌がおこり繭価

の大暴落となります。またこの年は蚕の病気がはやり全滅、弓浜の養蚕農家は景気不況の追い討ちを受けることになりました。

積善は繭価暴落と不作のなかで、それまで慣例的に決められていた小作料に疑問を持ち、小作料は地主と小作農家の話合いで決めるべきと小作農民の団結を呼びかけ、これが後に弓浜小作争議と呼ばれ全国に先鞭をつけた農民運動となりました。

この争議の成果から各地の農民運動の指導を行い、また日農の中央委員として奔走し、その後は県会議員や中浜村長を務めます。

戦前戦後一貫して地域小作農民のために尽力した背景には、「農民に土地と自由を」と叫ぶ農民運動の合言葉に、積善のゆるぎない信念が伝わってきます。

左の額は、農民運動のスローガンというべき書で松本功氏より市へご恵贈戴きました。(市史編さん室 小灘浩)



大山郁夫の書「断鉄鎖」



杉山元治郎の書「獲得自由」

確定申告をお忘れなく！

確定申告の受付は、3月15日(月)までです。まだお済みでない方は、忘れずに申告しましょう。

問合せ先 税務課市民税係 (☎47-1017)